

実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。

別紙3
様式例 活動報告書

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2086417
施設名（園名等）	多摩みゆき幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂と水の研究（5歳児）

<テーマの設定理由>

砂場での子どもたちの水を利用した遊びに着目し、「水」をテーマとして設定する。砂場において、川づくり、池作り、山作り、団子作りなど水を利用した遊びをいつも行っている。そこには水
の特性（高い場所から低い場所に移動する、砂を固めることができるなど）を遊びながらみつけ、それらを利用して遊びをさらに
広げている姿が見られる。「水」に関してとても興味・関心を持っていることが見受けられたため、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

活動1 水と砂の性質を探る

水の性質、砂の性質がどのようなものかを考えてみる。

1. グループに分かれて、実施に水、砂の性質を実験してみる。
各グループに水、砂を用意しそれぞれの形、色などの特徴を観察する。
2. 水と砂の関係がどのようなものかを考えてみる
3. グループに分かれて、実施に水と砂を合わせてみて実験してみる。
先ほどの水、砂を利用してお互いに混ぜ合わせてみて変化を探る。
それぞれの量がちがうことにより、どのような変化があるかを見てみる。

活動2 砂場で試してみる

前回は行ったことを振り返り、それぞれの性質を知った上で実際に砂場にて砂と水を利用して実験してみる。それらの性質を利用してどんな遊びができるかを考えてみる。

活動3 活動の振り返り

これまでの活動を振り返り、さらにどのような遊びができるか、また水とその他の自然物、砂とその他の自然物を合わせるによりどんなことができそうかを考え、さらに新たな遊びはないかを考えてみる。

活動4 保育者による活動の振り返り（2026年3月2日）

全体の振り返りを行い、今後の遊びにどう活かしていけるかを考える。

- それぞれの活動日の午後に保育者間でふりかえりを共有し、次回の打ち合わせを行う。またその都度、保育者、保護者に向けてオンラインにて実施報告をしていく。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

活動1は室内で行い、砂や水について話し合った。砂の性質、水の性質、それぞれを混ぜたらどのようなようになるのか？などを想像して意見を出し合ってみた。その後ボールに乾いた砂を入れて、触ってみたり、匂いを嗅いでみたりし、水を入れるとどのように変わるか実際に行ってみた。普段何気なく遊んでいる砂や水を違う視点から観察してみて、手触り、匂い、冷たさなどを子どもたちなりに感じている様子が見られた。また触り慣れている子もいれば、普段あまり遊ばない子もいたので、慣れている子がアドバイスしながら新たな経験となっている子もいた。

活動2では実際に砂場に行って、保育室で行ったことを確かめることを行った。改めて砂だけ、水だけの感触を味わい、それらを混ぜた時の変化を試してみた。そこから感触が変わったことによりどんな遊びができるかを考えてみた。また今回導入した水の出るガチャポンプを利用してさらに遊びがダイナミックになるため、さらなる遊びの展開を子どもたちと一緒に考えてみた。

活動3では、水と砂の楽しさを知った上で、大人になっても様々な遊びをしていることを紹介した。(サンドアート、陶芸、泥遊びなど) また水と砂、泥を利用して田んぼを作り米作りにも繋がっていることで自分たちの生活に密着しているものだという事も考えてみた。

子どもたちからは、泥団子(ピカピカにすること)や園の泥場を利用して簡易的な陶芸遊び、砂場での川作りなどができるという意見が出た。

その後、自由遊びの時間に砂や水を使った遊びをする子が多くなり、遊びの内容もより発展したものになっていった。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

改めて砂や水のことを考えてみて、子どもたちの遊びに変化が見られた。自由遊びの時間に積極的に砂場や泥場で遊ぶ子が多くなり、さらに陶芸遊び、砂や土を濡らしてドロドロやトロトロになった感触を味わって楽しむ姿が見られるようになった。また泥や砂が実は嫌いな子がいることもわかったことはとても良かった。

担任が色々な海の砂を集めることが好きだったため、その話をしたところ子どもたちの興味や関心がさらに広がっている様子が見られた。

陶芸遊びでは、水の加減によって形が変わってしまうこともわかり、さらに焼く代わりに冬の焚き火の近くに置いて焼いてみるという実験も子どもたちなりに考えて遊ぶ姿が見られた。